

# 多文化主義政策と移民のナショナルアイデンティフィケーション

東北大学 五十嵐彰

## 1 目的

西欧において移民に関する政策の一つに多文化主義政策がある。エスニック・グループ間の文化の違いを尊重することを目的とし施行される政策を指すが、この政策の効果においては疑問視する声も上がっている。特に多文化主義政策と移民のアイデンティフィケーション（以下 NI）との関連について、政治哲学者が理論的な議論を重ねてきた。Kymlicka を始めとする多文化主義に肯定的な学者は多文化主義政策が移民の社会参加を促し、結果として NI を高めると論じている。他方 Barry (2001) といった多文化主義に否定的な学者は、多文化主義政策はエスニック・グループ間の文化的差異を強調するため、移民が自身のグループに閉じこもり、結果 NI を下げると論じている。これらの論争に対し実証分析が望まれるが、既存の分析は数か国間の比較にとどまっており (eg, Ersanilli & Koopmans, 2011)、多文化主義政策と NI との関連について結論的とはいえない。本研究では、多文化主義政策と移民の NI との関連をヨーロッパで行われた大規模社会調査を用いて検討する。分析の方針として、国民と移民との NI の差を多文化主義政策が減少拡大させるかを検討する。またどの移民が多文化主義政策に反応するかを検討するため、移民を第一世代・第二世代、および非ヨーロッパ・ヨーロッパ出身に分けて分析する。

## 2 方法

データは European Social Survey round 7 を用いる。2014 年に行われ、21 カ国が参加した。本研究ではこのうちデータ取得可能な 20 カ国を対象とする。国民、第一・第二世代、ヨーロッパ系・非ヨーロッパ系移民を含め、最終的なサンプルサイズは 22,476 であった。従属変数は NI であり、これは「あなたは以下の地域にどの程度愛着を感じますか？」という質問ののち、居住国に対する回答を 4 件法で測定したものである。多文化主義政策は既存の多文化主義政策指標 (MCP) を反映させるように、移民統合政策指標 (MIPEX) を組み替えたものを用いる。個人レベルの制御変数は年齢、性別、主観的地位、教育レベル、市民権である。国レベルでは GDP、失業率、外国人割合を用いる。手法はマルチレベル分析を用いる。

## 3 結果

多文化主義政策は非ヨーロッパ系移民の NI と正の相関をもっていた。つまり、多文化主義政策がより充足していれば、非ヨーロッパ系移民の国民との NI 差は縮まるということである。この効果は世代にかかわらずみられた。

## 4 結論

多文化主義政策は NI と正の関連をもっており、多文化主義肯定派の議論が正しかったといえる。特に非ヨーロッパ系移民のみに効果がある点は、彼らのホスト社会との文化差に対して多文化主義政策が効果を持つ証左とも言えるだろう。

## 文献

- Barry, B. (2001). *Culture and Equality: An Egalitarian Critique of Multiculturalism*. Massachusetts: Harvard University Press.
- Ersanilli, E. and Koopmans, R. (2011). Do immigrant integration policies matter? A three-country comparison among Turkish immigrants. *West European Politics*, 34, 208–234.
- Kymlicka, W. (1995). *Multicultural Citizenship: A Liberal Theory of Minority Rights*. Oxford: Oxford University Press.